

# 八雲町ホタテ貝養殖地域プロジェクト(ホタテ貝養殖業)

(ホタテ貝養殖業者12経営体)

## もうかる漁業創設支援事業検証結果報告書 (改革漁船型・既存船活用型)

事業実施者:八雲町漁業協同組合

実施期間:平成26年12月1日～平成31年2月28日(3事業期間)

### 1. 事業の概要

経営状況が低迷している八雲町地域のホタテ貝養殖業小規模経営体を根本的に立て直すため、養殖作業の共同化や高性能機器の導入・効率的配置により労働力不足等の課題を克服し、2年貝主体の生産体制から3年貝主体の生産体制へと養殖サイクルの転換に取り組んだ。さらに、クマタニ(貝を1枚ずつ機械に挿入して貝殻の付着物を除去する洗浄機)の導入による高鮮度出荷に地域が一体となって取り組むことで、低コスト・高収益型のホタテ貝養殖業経営体を構築し、八雲町地域の基幹産業であるホタテ貝養殖業の経営基盤の強化に取り組んだ。

### 2. 実証項目

#### 【生産に関する事項】

#### A 3年貝主体の生産構造へ移行

- ① 共同作業船の使用と高出力ユニットの導入による出荷作業の共同化により、3年貝主体の生産構造(生産目標:新貝(2年貝)41.4%、旧貝10.9%、3年貝47.7%)へ移行を図る。
- ② 共同作業船へのクマタニの導入により、高品質の3年貝の出荷を図る。
- ③ 3年貝主体の生産構造へ移行することで、漁場への環境負荷を軽減し、大量斃死の防止を図る。

### 3. 実証結果

共同作業船の使用と高出力ユニットの導入により出荷作業の共同化を実施し、3年貝主体の生産構造へ移行を図ったが、台風と噴火湾全域で発生した原因不明の大量斃死による影響で、計画を大幅に下回った。

3年貝主体の生産構造については、1期目はほぼ計画値に近い3年貝を生産することが出来たが、2期目以降は大量斃死等の影響により計画通りの生産構造へ移行することは出来なかった。

生産量(トン)

	計 画	実 績	対計画比
1 期 目	1,397	343	25%
2 期 目	1,397	69	5%
3 期 目	1,397	518	37%

生産額(千円)

	計 画	実 績	対計画比
1 期 目	293,196	159,995	55%
2 期 目	293,196	36,077	12%
3 期 目	293,196	167,158	57%

規格別生産量割合

	2 年 貝	旧 貝	3 年 貝
計 画	41%	11%	48%
1 期 目	21%	32%	47%
2 期 目	38%	31%	31%
3 期 目	51%	28%	20%

## 2. 実証項目

### B 稚貝採取作業(沖合)の共同化

○ 共同作業船の使用、高出力ユニット及び稚貝選別機の導入に併せて、養殖業者をグループ化(4名1グループ)し、採貝採取作業を共同化することにより、省力化・省コスト化を図る。

### C 種苗の共同購入

- ① 複数の他産地から一定量の種苗を予約購入することにより、地場種苗の好不漁にかかわらず、種苗を安定的に確保する。
- ② 他産地種苗の購入・運搬に係る業務を共同化することで省コスト化を図る。

### D ザラボヤ駆除作業の共同化

- ① ホタテ貝分散作業とザラボヤ駆除作業が重複する時期において、共同作業船の使用、高出力ユニット及び貝洗浄機、コンベアの導入に併せて、養殖業者をグループ化(4名1グループ)し、駆除作業を共同化することで、ザラボヤ駆除を効率的に実施し、駆除率100%の実現を目指す。
- ② 「噴火湾渡島ホタテ貝等付着処理に係る自主的ガイドライン」を遵守する。

### E 出荷作業の共同化

- ① 2経営体が1グループとなり、高出力ユニット及びガラガラ、クマタニ等を装備した大型の共同作業船を使用して、貝洗浄作業や選別作業等を共同化し、出荷作業の効率化を図る。

### F 漁場環境調査への協力と情報の共有化

- ① 噴火湾ほたて生産振興協議会が実施する漁場環境調査への積極的な協力体制を構築する。
- ② これら調査結果、水産試験場や水産普及指導所が発信する各種情報をグループ内で共有化し、ホタテ貝生産の安定化を図る。

## 3. 実証結果

稚貝採取作業の共同化を、1期目は養殖期間途中から事業を実施したため実施出来なかったが、2期目、3期目は計画通り共同化が図られた。

共同化による燃油費削減(998千円)についても、燃油費全体で燃油費が削減されていることから一定程度の効果はあったと思われる。

燃油費(千円)

	燃油費	削減額
計 画	17,031	—
1 期 目	14,247	2,784
2 期 目	11,858	5,173
3 期 目	11,488	5,543

1期目、2期目は採苗結果が好調だったため、経費を削減するために他産地種苗の購入は実施しなかった。3期目については計画通り、他産地種苗を共同購入し、省コスト化が図られた。

- ① 計画通り、12経営体を3グループに分け、3隻を使用して共同でザラボヤの駆除を実施した。大量斃死等により、生産金額の増加は図れなかったが、生育阻害の要因になるザラボヤは100%駆除することが出来た。

- ② 計画通り、ガイドラインを遵守した。

計画通り、2経営体が一つになって出荷作業の共同化を実施したことで出荷作業の効率化に繋がった。

計画通り、噴火湾ほたて生産振興協議会が実施する漁場環境調査へ積極的に協力し、漁場環境情報については共有化を図った。

## 2. 実証項目

### 【流通販売等に関する取り組み】

#### G 高鮮度出荷

① 出荷時の貝洗浄において、クマタニを導入することにより、出荷物の破損を防止し、鮮度劣化の抑制により高鮮度出荷の実現を図る。

#### H ブランド化対策

① 生鮮向け3年貝の中で、一定基準を満たした貝を「(仮)八雲産鮮抜活はたて貝」の名称でフラッグシップとして販売する。

#### I 新たな国内販路の掘り起こし

① 直販店での販売など新たな国内販路の掘り起こしを行う。

#### 海外輸出の促進

② 漁協主導の下、近年好調な中国輸出を始めとした海外輸出を促進する。

③ 3年貝の出荷においては「活貝」輸出への対応を強化し、3年貝価格の安定化を図る。

## 3. 実証結果

計画通り、クマタニを用いた高鮮度出荷に取り組んだ。しかし、噴火湾のホタテの大量斃死等によりホタテ全体の市場価格が異常な高値で推移し、変動も激しかったため、高鮮度出荷による他のホタテとの価格差を確認することが出来なかった。

ブランド貝基準を満たす12cm以上の生鮮向け3年貝の生産を試みたが、大量斃死等により基準を満たすホタテ貝の生産が出来なかった。

大量斃死等により、ホタテ全体の相場が高騰し高鮮度出荷の差別化が図れなかったこと、ブランド貝に適した3年貝の生産が出来なかったことから、国内外の販売強化を図ることが出来なかった。

## 4. 収支、経費、償却前利益及びその計画との差異・その理由

### 【収入】

噴火湾で発生したホタテ貝の大量斃死や台風等の影響を受け、生産量が大幅に減少したため、収入は計画の1割から6割程度に止まった。

### 【経費】

経費全体では、生産量の減少により販売手数料等は減少したが、1期では台風の影響で漁具費や消耗品費が計画を上回った。差が大きい科目は以下の通り。

#### [漁具費・消耗品費]

1期目は平成28年度の台風の被害により漁具費が高み、2期目・3期目は大量斃死の影響により、ホタテ貝の数量が減少したため漁具費は減少した。

#### [修繕費]

漁船の老朽化が進んでいることから修繕費が高んだ。

#### [租税公課]

実証事業開始前の水揚げが多かったことから、1期目の租税公課が多くなった。

#### [一般管理費]

実証事業開始前の生産量、単価が共に好調だったため税理士報酬等が高額になり、その請求が事業期間中に発生し多くなった。

### 【償却前利益】

生産高の大幅な減少により、1期目△89,682千円、2期目△174,682千円、3期目△35,006千円とそれぞれ計画を大幅に下回った。

## 5. 次世代船建造の見通し

計画：償却前利益 76.6百万円	×	次世代船建造までの年数 15年	>	養殖施設等の取得費 899.3百万円
(改革1年目の値を基に算定)				
↓				
実績：償却前利益 △99.8百万円	×	次世代船建造までの年数 15年	<	養殖施設等の取得費 899.3百万円
(改革3年間の平均値を基に算定)				

収支が大幅に悪化し計画通りの償却前利益を得ることはできなかった。

## 6. 特記事項

噴火湾で発生したホタテ貝の大量斃死の影響を受け、水揚げが大幅に減少し、収益が計画を大きく下回った。斃死の原因は不明であるが、引き続き発生状況を注視し、場合によってはコンブ等ホタテ貝以外の生産物に転換することも検討して収益の確保を図りたい。

事業実施者：八雲町漁業協同組合 (TEL:0137-62-3101)

(第88回中央協議会で確認された。)